みんなのヒロカ話ワ

VOL.4



地域活性化起業人※
エプソン販売㈱
三浦健佑さん

広川町で活躍する人をリレー形式で紹介するコーナー。第4回は、地域活性化起業人として広川町役場へ赴任中の三浦さんです。

不安なスタートから、町の温もりに支えられ、DXで広川町に恩返しを

民間の営業職から、未訪の地・広川町のDX推進へ

三浦さんは宮城県仙台市生まれ。大学卒業後、エプソン販売㈱に入社し、プリンターやプロジェクターを取り扱う営業職として、盛岡や札幌、東京などで経験を重ねてきました。そんな三浦さんが今年4月、地域活性化起業人として広川町役場へ赴任。営業職とは異なる「業務のDX化」という新たな役割と、新天地、広川町での生活に、着任当初は「自分が役に立てるだろうか」と不安だったといいます。

自分の足で歩いて知った、広川町の豊かな自然と人々の温かさ

半年が経過した現在、そんな不安は安心感へと変わりました。役場職員や地域の人と触れ合う中で、分からないことも親身に教えてもらいながら過ごせていると語ります。趣味はキャンプや散歩で、町内を歩き広川町の豊かな自然や魅力を肌で実感しているそうです。

公私ともに町へなじみ、広川町の未来へ貢献

「広川町に恩返しを」、という思いが一番の仕事の原動力」と語る三浦さん。DX推進を通じて役場業務の効率化や町への貢献を目指しています。公私ともに広川町での暮らしを充実させている三浦さんの姿は、広川町の未来に向けた頼もしい力となっています。

次回はどんな人にバトンが渡るのでしょうか。お楽しみに！

※地域活性化起業人とは、民間企業の社員が期間限定で地方自治体で働き、専門知識やノウハウを活かして地域活性化を担う制度です。

広川文芸

ひろかわ俳句会



ボンネットはみ出すお手て猫の秋　溝田　幸
ひとはけの夢が漂ふ秋の雲　青木佳代子
雲陰に日の移りゆく秋夕焼け　原口あつ美
太刀魚や岩塩まぶし舌つづみ　一瀬砂智子
下弦の月歩みあわせて犬連れて　坂田　康治
秋の空見上げてひとり深呼吸　西村智佳子
少子化の進む里なり秋の暮　酒井　司
窯出しの紅き器に秋日射す　原口　正信
新米や筑波の清水粒豊か　結束　節子
古里の棚田のほむら曼殊沙華　水本　艶子
雑草の群に混じりてカンナ燃ゆ　渡辺　弘子

櫻の会

天神の変はりやうには驚きぬ浦島太郎状態となり　一瀬砂智子
疲弊した庭の木々等に容赦なく燃え立つやうな夏の夕焼け　中倉　明美
小雨降る三瀬トンネル抜ければ三連水車秋のはじまり　濵武美智子
夫ありて娘らの笑顔に支へらる草花愛でしあのオアシスよ　山﨑美代子
伸びきった髪をていねいに洗ひけりまだ健康で生きたしと希ひ　小西　俊郁
夜の内に生ゴミを外に出しましょう明日のわたしが感謝するから　丸山　雪乃
ああお帰り透きとほる風草の露父の生れたる長月を行く　青木佳代子

ふるさと
再発見
広川町郷土史研究会

広川町にある巨樹・珍樹　その27

「広川町にある巨樹・珍樹その22（広報ヒロカワ6月号）」で、柿は渋みの有無で4分類されることを紹介しました。今回は、野生の渋柿を紹介します。

マメガキ「豆柿」

グリートパークの一隅に、4本の柿の木があります。

幹周　0・52メートル
樹高　約15メートル

規模としては、それほど大きな木ではありませんが、時期になると、多くの実をつけて、柿紅葉がきれいです。

この木は、野生木で一般にはマメガキ「豆柿」と呼ばれます。実の形は個体差が多く、渋柿のため、熟柿か干し柿にしないと食べられません。大川市の風浪宮大祭の名物として知られる串柿は、こうした柿を竹串に刺して干し上げて作られます。八女郡東部地域の山間部では、多くの家で夜なべ仕事として作られていましたが、手間がかかることから、現在では作る人が少なくなってしまいました。ちなみに、風浪宮大祭の時にその年の串柿の相場価格が決まるともいわれていました。

食べられない渋柿でしたが、柿渋を作る材料として、なくてはならないのがこれらの野生の渋柿でした。

以前は筆者の家の近くにも柿搾り小屋があって、収穫の時期になると操業が開始され、毎日多くの柿の実が運び込まれ、大きなローラー機で、夜通し柿汁を搾っていました。その搾りかすは発酵が早く、工場内には何ともいえない臭いが漂っていました。搾りかすは、田畑などの肥料にしていました。たかが渋柿ですが、されど渋柿です。

生活の中にちゃんとした役割があったといえます。


▲グリートパーク内のマメガキ


▲マメガキの実

子育て支援センター「ハグハグ」



親子でハグハグ！　イベントの様子

ママ café『絵本の選び方』



広川町立図書館の司書を講師に招き、年齢に応じた絵本の選び方のポイントや読み聞かせの大切さについて学びました。

利用者の声（丸山遥さん）

広川町への転入をきっかけに「ハグハグ」の利用を始めました。「ハグハグ」は気軽に行ける子どもの遊び場としてだけではなく、保護者が育児相談や、ほかの利用者と交流ができるなど、大人にも寄り添ってもらえる心強い場所です。今後も、親子で楽しく利用したいと思っています。



ハイハイレース



動かない子どもや泣き出す子ども、まっしぐらにゴールへ向かう子どもなど、さまざまなレースの展開に参加者も応援者も大盛り上がりでした。次回は 12 月に開催します。

小麦粉粘土であそぼう



小麦粉と水を使って赤・白 2 色の小麦粉粘土を作り、伸ばしたり丸めたりちぎったりして感触を楽しみながら遊びました。子どもたちはもちろん、大人も童心に返って楽しんでいました。

子どもの急な病気に困ったら

休日・夜間に子どもが病気になったとき、
小児科医師・看護師へ相談できます。

小児救急電話相談　☎＃ 8000

子育て支援センター ハグハグ

町民交流センター「いこっと」1 階
開館 / ㈪～㈮・㈰、9:30 ～ 16:00
閉館 / ㈯・㈷（㈫は対象者のみ）
問子ども課こどもまんなか推進室
☎ 0943-32-1194

こども まんなか PROJECT

イベントや健診の情報は QR コードから確認できます！

★イベント情報★　★乳幼児健診★